

Fastly + 株式会社フューチャーショップ

Fastly の次世代WAF で ECサイトのセキュリティを強化 攻撃に対する誤検知やブロック漏れが格段に減少

ネットショッピングの黎明期からサービスを提供し、EC業界で19年以上の経験とノウハウを有する株式会社フューチャーショップ（以下、フューチャーショップ）。現在、2,900を超える店舗で利用され、年間1億円を突破する店舗が続々と誕生する ECサイト構築プラットフォーム「futureshop」シリーズを展開している。フューチャーショップでは、包括的なセキュリティの強化を目的に、ブロックの正確さやルールのわかりやすさ、カスタマイズのしやすさなどを評価して、Fastly の次世代WAF を採用した。

高度化する ECサイトへのセキュリティ攻撃に いかに対応するか

フューチャーショップが提供する futureshop は、楽天市場やアマゾンのようなモール型の ECサイト構築サービスではなく、自分のお店を自分のドメインで作ることができる SaaS 型の ECサイト構築プラットフォームである。店舗の運営事業者が、市場で最大限に競争力を発揮できるようにプロダクトの提供だけでなく、サポート（カスタマーサクセス）や勉強会／セミナー（futureshop アカデミー）、個別コンサルティングをトータルに提供できることが強みである。

futureshop の特長を、取締役 CTO の末田佳和氏は、次のように語る。「futureshopはオープンソースのプログラムをカスタマイズして利用したり、独自のシステムを開発・構築したりするのではなく、ご利用の皆様は同じ1つのシステムをCMSなどのカスタマイズ機能を使ってECサイトを構築・運用できるSaaSのサービスです。そして、そのカスタマイズが非常に広範囲に柔軟にできることが最大の特長です。サブスクリプションサービスなので、独自のシステムを構築するよりも安価に利用でき、短期間でお店をオープンできることもメリットです」

futureshop は年数回のバージョンアップがあり、セキュリティへの対策や機能の改善、新しい機能が追加されるので、常に最新機能を利用することができることも特長の1つ。特に最近では、セキュリティ関連の機能が強化されている。末田氏は、「ECサイトに対するセキュリティ攻撃はどんどん高度化しています。プロダクトの脆弱性を狙った攻撃も多くありますが、サイトへの不正ログインや設定ミスを利用した攻撃なども多く、その対策はお客様ご自身で気をつけなければならないことと、私もベンダーに任せていただくことの役割分担が必要で、双方の協力が大事になります」と話す。

フューチャーショップでは、3～4年前より他社が提供するクラウド型 WAF を利用していたが、その WAF はベンダーが提供する機能や設定をそのまま使うサービスだったため細かい設定やカスタマイズができず、なにが誤検知になり、どうすればブロックされるのか、また除外されるのかを容易に把握することが困難だった。また設定やカスタマイズが必要な場合、ベンダーに依頼することが必要で、設定やカスタマイズに時間とコストがかかることも課題だった。



社名:株式会社フューチャーショップ

2010年3月、株式会社フューチャースピリッツからの分社で設立。「未来にいけるヒトテクノロジー」を企業スローガンに、SaaS型ECサイト構築プラットフォーム「futureshop」シリーズの企画、運営、開発、および電子商取引（eコマース）支援サービスの提供を事業として展開。インターネットのもつ本来のパワーである「シェアする力」を利用し、「ハイクオリティサポートを追求する」ことで、すべての顧客と「Happyをシェア」することを目指している。

住所:〒530-0011 大阪市北区大深町 4-20

グランフロント大阪 タワーA 24階(大阪本社)

URL: <https://www.future-shop.jp/>

fastly®



Security

末田氏は、「攻撃と認知するルールが明確ではなかったため、過剰反応と思われるブロックが起きたり、複数サイトを横断しアクセスが集中していないように見える攻撃がブロックされなかったりといった課題が多発していました。また、自分たちでルールの設定や修正ができず、問題が発生するたびにベンダーに調整を依頼することが必要で、反映までに相当なタイムラグがあることや期待どおりに改善されないことがあるなど、使用方法に対する課題が山積していました」と話している。

サーバーへのルールの反映もほぼリアルタイムで一括実行

フューチャーショップでは、2021年6月より WAF を刷新するための検討を開始。いくつかの WAF を比較検討した結果、Fastly の次世代WAF を採用することを決定する。その後、PoC（概念実証）で導入に必要ないくつかの設定が利用可能かどうかを確認し、問題なく利用できることが検証できたことから、2021年12月より本番環境への導入を開始している。

Fastly の次世代WAF を採用した理由を末田氏は次のように話す。「2020年6月より Fastly の CDN を使っていたことが縁で Fastly のスタッフから次世代WAF を紹介され、PoC を実施して採用を決めました。不正アクセスを確実にブロックできることやルールのわかりやすさ、カスタマイズのしやすさ、複数のサーバーの設定を一元管理できることなどの機能を特に評価しています」と話す。

futureshop は、商品の購入者が利用するシステムと店舗の管理者が利用する管理画面の大きく2つの仕組みで構成されており、Fastly の次世代 WAF はすべてのシステムに導入されている。販売サイト、管理画面などフロントエンドのウェブサーバー群全域に Fastly の次世代WAF を導入することで、共用/専用のサーバー構成の違いに関わらず、一貫して次世代WAF の保護下に入る形になっている。

今回利用しているのは、自社で自由にエージェントをセットアップすることができる Agent WAF である。その理由を末田氏は、「2,900以上の店舗が稼働しているのですが、すべての店舗に対し1つのルールを適用できるだけでなく、特定の店舗にだけ設定したいルールに関しても容易に設定、管理することが必要でした。またネットショッピングのサービスなので、メディアなどに取り上げられるとアクセス数が急激に増えます。これに耐えられる仕組みを考えると Agent WAF の一択でした」と話す。

Fastly の次世代WAF を導入した効果を末田氏は次のように話す。「攻撃に対する誤検知やブロック漏れが格段に減りました。また複数サイトをローテーションしながら攻撃先をポーリングするような IP も検知、ブロックできるようになったので、高いパフォーマンスを常に維持することができています」

ルールの設定もドメインやリクエストパスなど細かな条件で判定でき、除外ルールの設定も簡単に柔軟に素早く調整ができるようになっている。またブロックする範囲もサーバー単位の制御ではなく、サービス全体を通して一括で判定し制御することが可能。さらにすべてのサーバーへのルールの反映もほぼリアルタイムで一括実行できるので、運用が大幅に効率化されている。

Fastly のサポートについて末田氏は、「期待していた以上の効果もありました。それは緊急性の高い攻撃へのテンプレートルールの対応が早いことです。実際に使っていく中で大きめの攻撃があったのですが、Fastly のサポートによりルールを変更したことで、迅速かつ柔軟に攻撃に対処できました。また導入にあたりいくつかの工夫が必要でしたが、Slack を利用した Fastly の迅速なサポートにより問題なく解決できました」と話している。

イメージオプティマイザーの導入による商品画像の最適化も検討

今後、フューチャーショップでは Fastly の次世代WAF を活用することで、これまで以上にサイバー攻撃による情報漏えいをしっかりと防ぎ、Futureshop のユーザーが安心、安全に利用できるプラットフォームの提供を続けていく計画という。また、eコマースの特性上、商品画像を多く組み込んでいることから、よりよいパフォーマンスを発揮することを目的に Fastly のイメージオプティマイザーを利用することも検討している。

末田氏は、「フューチャーショップでは、2,900を超える稼働店舗から日々集まってくる実践的アイデアやノウハウを実装し、充実した eコマース環境をお客様にシェアして、より使いやすく、より安全にネットショッピングができる未来を目指していきます。また現在は、独自の仕組みで画像の最適化を実現していますが、イメージオプティマイザーを利用することで、開発工数もコストも低減することが期待できます」と話す。

今後の Fastly への期待を末田氏は、「ネットショッピングのサービスは、セキュリティに対する高い意識を持ち続けることが必要ですが、状況に合わせて Fastly のスタッフが迅速に対応、サポートしてくれるので感謝しています。今後も、いかにサービスの利用者に負担をかけることなく高いセキュリティを提供できるかが重要であり、Fastly のプロダクトやサポートには大いに期待しています」と話している。



CTO
末田 佳和 氏

お問い合わせ



✉ japan@fastly.com

🐦 @FastlyJapan

🌐 www.fastly.com/jp

📘 @FastlyEdgeCloudJapan



fastly



Security